

微破壊試験を活用したコンクリート建造物の健全性診断手法調査研究委員会
補修・補強の現状調査と課題整理部会 (WG3)
第3回 WG 議事録 (案)

議事録担当：松林

- 日 時：2011年2月9日 (水) 15:00～16:30
- 場 所：袖ヶ浦火力発電所 新館2階 456会議室
- 出席者：二羽委員長
(WG3) 岩波主査, 谷村, 横沢, 松林

以上5名 (敬称略)

- 資 料：WG3 3-0 議事次第
- WG3 3-1 WG3 第2回 WG 議事録 (案)
- WG3 3-2 第2回 全体会議 議事録 (案)
- WG3 3-3 2011.1.24付メール依頼内容 (岩波主査)
- WG3 3-4 健全性評価の現状と微破壊／非破壊試験の活用について (松林委員)
- WG3 3-5 補修・補強事例の収集結果 (谷村委員)
- WG3 3-6 補修・補強事例の分析 (横沢委員)
- WG3 3-7 栈橋上部工の補修事例 (岩波主査)

■議 事：

1. 前回 WG 議事録の確認 (資料 WG3 3-1)

2. 前回全体委員会議事録案の紹介 (資料 WG3 3-2)

3. 今回 WG の論点確認 (資料 WG3 3-3)

今回 WG の論点を確認した。

(論点) ①補修・補強事例の収集結果 (追加分)

②収集した事例に基づく分析結果

また、岩波主査より建造物の健全性の定義 (私見) について案が示された。これに対して、活発な議論が行われた。

4. 各委員による資料説明

4-1. 資料 WG3 3-4 (松林)

- ・微破壊／非破壊試験が適用されるのは、目視による判定により特段の異常が認められた場合 (個別対応時) に限るため、試験の義務化は難しいと思われる。
- ・微破壊／非破壊試験の活用を促進するためには、活用によって LCC 低減につながった

事例を蓄積することが必要。

- ・委員会としては、LCC 低減を目的とした検討を行う際の考え方・手順・考慮すべき事項を示すとともに、目的に即した微破壊／非破壊試験の活用方法を例示することで微破壊／非破壊試験の活用を促すことが必要ではないか。
 - 微破壊／非破壊試験の義務化は反発が予想されるため難しい。提案のような方向でまとめれば受け入れられる可能性が高いと思われる（二羽委員長）。

4-2. 資料 WG3 3-5（谷村委員）

- ・主に日本鉄道施設協会誌より抽出した補修・補強事例（18 事例）の紹介があった。

4-3. 資料 WG3 3-6（横沢委員）

- ・これまで調査した補修・補強事例の中から 4 件を詳細に分析した結果の報告があった。
 - ◇ 加速期、劣化期に入っの対策が多い。
 - ◇ 複合劣化の場合、対策がどちらかに偏る場合がある。
 - ◇ 微破壊試験を活用し、予防保全を行っておけば LCC が低減できたと思われる事例がある。
- ・分析の結果を踏まえ、今後の取り組みに対して提言がなされた。
 - ◇ 予防保全と事後保全の中間的な考え方ができないか。（進展期の終わりから加速期前期の劣化レベルを対象とする）
 - ◇ 進展期と加速期前期をもう少し細かく分類して、微破壊検査、非破壊検査、解析を組み合わせしていくことが必要。

4-4. 資料 WG3 3-7（岩波主査）

- ・雑誌「港湾荷役」より、大黒埠頭の栈橋上部工の補修計画に関する事例の紹介があった。
 - ◇ 健全性について明確に定義されていないが、安全性（耐荷力）と鉄筋腐食程度の双方に着目して、その経時変化を考えている。
 - ◇ 微破壊／非破壊試験の活用としては、鉄筋腐食量、自然電位、塩化物イオン濃度の測定が行われている。

5. その他

- ・本日の WG 資料の電子データを岩波主査へ送る。
- ・今回の WG 資料をまとめて次回全体会議の資料とする。可能であれば事前に WG メンバーに送付して、内容の確認を行う（岩波主査）。
- ・次回 WG は、2/23 開催の全体委員会での議論を受けて日程調整を行う。

以 上